



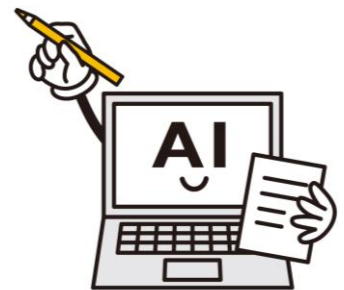
生成 AI まずは限定利用

文科省は4日、対話型人工知能(AI)の「チャットGPT」をはじめとした生成AIの利用に関する小中学校・高校向けのガイドラインを公表しました。学校における利用の基本的な考え方として「現時点では活用が有効な場面を検証しつつ、限られた利用から始めることが適切」との見解です。

ガイドラインは、生成AIに関する政府の議論や専門家からの意見の聞き取りなどを経てまとめられました。これは現時点での「参考資料」と言えます。

例えば夏休みなどの長期休業中の課題についても触れ、AI利用を想定していないコンクールの作品やリポートについて、AIの生成物を自身の応募・提出するのは不正行為だと十分指導することを求めています。一方で、誤りを含んだ生成AIの回答を教材として使い、その性質や限界を見童生徒などに気付かせるなどの活用が考えられると示しています。しかし、子供たちの発達段階や生成AIの利用規約を踏まえ、小学生の利用に関しては「慎重な対応」を求めています。主要な生成AIサービス規約には、年齢制限があり、チャットGPTでは、13歳未満の利用を認めず、18歳未満が使う場合は保護者の同意が必要となります。このため、文科省は小学生が自身のアカウントを作成し、デジタル端末を操作して利用することは想定していません。そのため、授業で活用する場合は、教員が生成AIを活用して得られた内容について、子供たちに間接的に示すといった形が中心になると思います。

さらに、公立学校では、職員の長時間勤務解消のため、校務での活用の実証実験も進めるとしています。当面、文科省は、保護者の理解を得ながら「生成AIへの心配に十分な対策を講じられる学校」で知見を積み重ねていくという見解も示しています。



たてわり班活動一学期の振り返り

帯西では、毎週水曜日の13時20分から13時45分を「わくわくタイム」としてたてわり班活動の時間としています。1年生から6年生までの異年齢のグループに分け、「帯西グリーン」の心に近づくために協力し合って活動しています。上級生はリーダーシップを発揮し、下級生に対して思いやりの心で接し、自己有用感を育みながら成長する一方、下級生は上級生をモデルとして活動することで、自身の行動を周囲から認められることで自己肯定感を高めることができます。

今日は一学期の活動を振り返る活動が、班ごとに様々な教室に分かれて行われていました。最後にZoomで振り返りを全校で共有しましたが、ベストフレンド班の1年生は「👁️ 帯西ブルーの心が伸びました。わけは運動場でみんながケガしないように行動できたからです。」、ブルーグレープ班の1年生は「👁️ 帯西グリーンの心が伸びました。わけは。みんなで楽しく(活動)できたからです。」と自分たちの活動を振り返り、2学期への意欲を高めていました。